

医療体制を維持するための方策は

持続可能な町内の医療体制について

町長 経営計画を早急に策定する



録画を配信



竹田雅彦議員

町立病院の経営改善

問 現在までの状況は。

町長 令和2年度決算は、純損失が7千万円を超える非常に厳しいものとなった。令和3年度も昨年と比べ入院で約19%減、外来で約8%減であり、感染対策の人員費や材料費も増加し、今後も厳しい状況。

問 今後の経営改善の方策は。

町長 経営計画を早急に策定し、「第2期健康と福祉の里構想」を着実に進めていく。

問 計画の策定期間は。

病院事務局長

令和4年度中には策定に向けて動きたい。

役割と連携

問 地域包括ケアシステムの充実のための町立病院と開業医の方々の役割は。

病院事務局長

専任の看護師を配置し、急性期病院からの受入調整や介護福祉機関との調整などを行っている。地域包括支援センターとも連携し、開業医の方々を含めた町の在宅支援室的役割を担っている。

問

町立病院の置賜地区での役割や公立置賜総合病院との連携は。

病院事務局長

医療連携推進協議会などで連携を強化している。また患者の同意を得て治療の内容など、ネットワークを介し、互いに電子カルテで情報を閲覧できるシステムを運用している。当院は後方支援病院として回復期医療を担っていくことになる。

医師・看護師の確保

問 医師や看護師の確保対策は。

病院事務局長

常勤医師が4名のほか、平日の一部や土日などは山形大学から派遣していた。看護師も充足している。今後、今後も町に根ざした医師確保のため、管理者を中

心に対応していきたい。

問

コロナ禍でのメンタルケアは。

病院事務局長

行動制限は強制していないが、各自厳しくとらえ行動しており、ストレスを感じている。各部門の管理者が個別面談を行ってケアをしている。

問 医師の方々は多忙だと感じる。働き方改革は。

病院事務局長

技師や事務方が代行する業務移譲や、電子カルテシステムを改良し、負担軽減につなげたい。

患者の声は

問 患者の声をどう反映し、改善しているか。

病院事務局長

患者サービス向上委



更なる安心の拠点へ

医療体制の確保を

問 人口減少が進み病院再編を検討する時代が来るかもしれないが、町立病院と開業医の方々の連携は町の宝。持続可能な医療体制の確保を。

町長

町立病院はどんなことがあっても守り続ける姿勢を持ち、取り組んでいきたい。